

## 『学会見聞記』

## 第23回国際血栓止血学会に参加して

23rd International Society on Thrombosis  
and Haemostasis 2011  
Kyoto, Japan July 23-28, 2010

丸 山 慶 子

金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻  
医療科学領域病態検査学 博士後期課程2年

私は2011年7月23日から28日に京都で開催された第23回国際血栓止血学会に参加しました。本学会は、約80カ国以上から約5000人が参加する有数の血液学会です。3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故後、日本で開催予定であった多くの国際会議が中止される中、本学会も米国での開催変更の危機に直面しましたが、日本の学会本部スタッフのご尽力により日本での開催にこぎつけました。日本主催の国際学会に参加できたことは、感慨深いものでした。

会場へ向かう電車の中では当然日本語が飛び交っており、国内学会に参加するような気分でしたが、会場に着いた途端、海外の方々の多さと飛び交う英語を目の当たりにし、私は国際学会に参加しに来たのだと改めて感じ、気が引き締まりました。

私は「Carbon monoxide-releasing molecule-derived CO regulates tissue factor in human endothelial cells and peripheral blood mononuclear cells」と題して、学会最終日にポスター発表を行いました。一酸化炭素 (CO) が炎症による凝固系活性化に与える影響について検討を行った報告です。COはCO中毒の印象から生体に有毒であるとの認識が強いと思いますが、低濃度のCOは生体防御に働くことが報告されています。炎症がおこると、抗血栓作用を有する血管内皮細胞が傷害されるとともに、血栓促進作用を示す単球が活性化され、血栓が形成されやすくなります。そこで、今回の検討では、生体防御に働くCOを炎症時に添加すると、凝固活性化状態を抑制し、血栓形成を制御する可能性が示されました。

また、光栄にも私の演題がHighlighted Postersに選ばれました。私の実験が目されたことはとてもうれしく、いつもサポートして下さる先生方や研究室の方々への感謝の気持ちとともに、今後もよい実験ができるよう、日々精進しようと改めて思いました。

本学会のポスター発表の演題数は1日約1000題で3日間行われました。国内の学会とは違い演題数が非常に多いため、すべての演題を把握できず、興味深い研究報告を見逃したかもしれません。次回からは前もって演題の

線密なチェックを行い、多くの研究成果を貪欲に吸収したいと思います。

英語のプレゼンテーションを聞きとるのには苦勞しましたが、多くの研究者の方々のプレゼンテーションを聞き、今後の研究のヒントとなる有意義な情報を得ることができました。また、世界の研究者の素晴らしい研究報告や活発な討論を直接自分の耳で聞くことができたことにより、多くの刺激を受け、自分ももっと今の実験を発展させていきたいと改めて感じました。

今回、国際学会に参加できたことは価値のある有意義な経験であったと思っています。それは、日常では味わうことができない世界を体験し、これまでと今後の自分を見直すきっかけとなる多くのことを学ぶことができたからです。また、自分の知識の不足や英語力の未熟さを改めて思い知ることとなり、残りの学生生活で改善していければと思います。また、これまで行ってきた研究が認められたことは、今後の自分の研究生活において価値あるものになったのではないかと思います。今の研究をさらに発展できるように過ごしていきたいと思っています。

